

灘の生徒が秘める集中力は、勉強だけにとどまりません。
“闘志と友情のぶつかり合い”。
それをいかに披露するのが、この体育祭なのです。

白熱する体育祭
のようすを動画
でチェック!



「灘校魂」を發揮! 白熱する体育祭



日本屈指の名門校である同校。明文化した校則がなく、生徒を「一人前の紳士」として扱う自由な校風でも知られています。そんな「灘らしさ」を存分に見せてくれたのが、9月に開催された第84回体育祭。体育委員が中心となり、企画から進行まですべて生徒主体で運営するのが伝統です。体育委員は100名を超す大所帯で、体育祭をいかに成功へ導くかが活動の集大成で、腕の見せどころ。非常にやりがいのある仕事として、毎年、体育委員志望者が続出するそうです。

さて、絶好の晴天に恵まれた当日。体育祭は、趣向を凝らしたオリジナル競技が多いことが特徴で、もちろん発案者は生徒たち。たとえば今年からの新競技「出動レース」は、会社員に扮して布団で寝ているところからスタート。スーツに着替えながらトラックを駆け抜けます。不良グループに妨害される「オヤジ狩りトラップ」の演出もあり、生徒はもちろん、先生や保護者も大爆笑です。

そして最大の見せどころは、伝統の「騎馬戦」。「綱引き」などで見せる真剣勝負の火花。「ヨッシャーッ!」という雄叫びや、猛々しく拳を突き上げる姿が続出します。良い意味で非常に男くさく、生徒たちは「灘のそのようなところを誇りに思う」と口をそろえて言っています。閉会式

で体育委員長が「今年の体育祭はどうでしたか?」と問いかけると、「サイコーッ!」「委員長、ありがとう!」の声が、あちこちからわき起こりました。
体育祭中、実に豊かな数々の表情を見せてくれた生徒たち。「灘」の名を聞けば、一般に思い浮かぶのは勉強の優秀さでしょう。しかし、この日見せてくれたような、熱い心——何事にも妥協しないその姿勢こそ、名門であり続ける同校の本来的な姿なのでしょう。

本気で競うからこそ よろこびもくやしさも 意味がある

教頭の大森秀治先生は、自らも灘OB。「本校の体育祭は、いい意味で『勝負』にこだわります。力を合わせ、本気で競うからこそ、その結果は心底うれしいし、くやしい。そう感じてくれる心を育みたいんです」と、愛校心たっぷりに語ってくれました。また、競技のひとつ、1500メートル走の「校長杯」には、なんと生徒に混ざって毎年出場を続けています。「最下位になったら引退」という公約を掲げており、「さあ、今年はいかに!?!」という注目が集まるなか、今年も見事に健脚がさく裂! 引退はまだまだ先になりそうです。



- 1 選手入場は、中1による「鼓笛隊」の先導で。演奏曲は同校での四季と想い出を歌詞に謳った「生徒歌」。校歌よりも思い入れがあるというOBも多い伝統曲。
- 2 今年の体育祭は、同校の校庭が全面人工芝に生まれ変わって、初めての開催となる。生徒たちは、鮮やかな緑の上を躍動感たっぷりに駆け回った。
- 3 昨年から登場した競技「はこびや!!」。畳の上に乗った生徒を、6人の仲間たちで運ぶ競技だ。バケツの水を頭からかけられるなど、道中にはさまざまな障害が待ち受ける。
- 4 先生の威厳と生徒の若さがぶつかり合う! 教師30名VS生徒40名の綱引き競技「師弟対決」。今年は教師チームの勝利となり、賞銀を見せつけた。
- 5 「騎馬戦」は最も盛り上がる競技のひとつ。怒号と歓声がうずまくなか、すさまじい闘争本能を見せつける。この武骨さもまた、同校の魅力。
- 6 クラスの力自慢が対決する「相撲」。クラスメートたちが「砂かぶり席」に詰めかけて声援を送る。「月輪熊」など、生徒自ら命名したユニークな四股名も見どころだ。

Topic!

It's Show Time! オリジナリティあふれる「応援合戦」

同校の体育祭はクラス対抗戦。高校生がクラスごとに演じる「応援合戦」も、チームの得点対象になります。持ち時間を1秒でもオーバーすると減点という厳しい条件の中、演出はすべて生徒による自作です。勇ましい演舞からお笑い要素を盛り込んだものまで、各クラスとも素晴らしいエンターテインメントを披露しました。

